

# Easter Village

イースタービレッジだより 第60号



セーのでダイブ スイミングプール・エライにて

2018年 フィリピンエクスポージャー

年が明けた2018年1月3日～12日の日程で、エクスポージャー（体験活動）がイースタービレッジで行われました。今回はその参加者のレポートをいくつか紹介していきます。

SALAMAT EV

高校3年 駒井桃奈

私は今回のエクスポージャーが2度目の参加となりました。最初はエクスポージャーに参加したことがある兄から色々な話を聞き、私も行きたいと思ったのがきっかけでした。2年前に訪問した際は、初めての海外渡航ということもあり、不安で一杯でしたが、今回はイースタービレッジのみんなに会えることが楽しみで、出発前から早く行きたいと思っていました。1月3日、空港で一緒に参加する仲間に出会えました。最初は仲良くなれるか不安でしたが、すぐに打ち解けることが出来ました。そこから飛行機を2回乗り継ぎ、約18時間かけてイースタービレッジに到着しました。長い道のりでとても疲れましたが、車を降りた瞬間にネリサとインダイがwelcome back mona!と言って抱き付けてくれました。彼女たちが私のことを覚えていてくれたことが嬉しく、長旅の疲れも一瞬で忘れてしまいました。

（中略）イースタービレッジでの生活は、大変だなと思うことがいくつもありました。特に大変だったことは、シャワーが水しか出ないことです。また水圧が弱く、洗うのに時間がかかったのも、最終的にトイレのバケツとお風呂用のバケツを使って体を洗わなければならない所が大変でした。トイレにも苦労しました。もちろん水洗なわけもなく、バケツにためておいた水を自分でお風呂用のバケツで汲み、トイレの中に入れ、流さなくてはいけませんでした。最終日に宿泊したマニラのホテルでお湯が出た時にはすごく感動しました。普段何気なく使っていると当たり前に感じていること全てが当たり前ではなく、これからは様々なものを便利に使える生活に感謝しなければならぬと改めて感じました。（次頁へ）





プールサイドでチーズ！

(中略) 一週間しか滞在しませんでした。私はイースタービレッジの生活がすっかり気に入りました。イースタービレッジは、温かさ、優しさ、面白さ、そして何よりも沢山の笑顔で溢れている場所です。滞在中にイースタービレッジの昔のDVDを見せてもらいました。ここに入所した理由は様々で、最初は泣いている子供もいましたが、やはり今と変わらず楽しそうに笑っている人が多かったです。そのDVDの中で、祐川神父様が「私たちはただ子供を預かっているのではない。ここにいる子供たちはみんな家族なのだ。」と言っているシーンがありました。私は、その言葉に深く感銘を受けました。Easter Village Songの歌詞「Easter VillageここはきみのふるさとEaster Villageここはきみのふるさと」にもあるように、「ふるさと」とは、「家族」がいるところだと改めて思いました。



お題は動物園



毎日が新鮮なことばかり

(中略) イースタービレッジでの思い出は一生忘れないでしょう。私はイースタービレッジに行つて将来の夢を見つけることが出来ました。これからエクスポージャーに参加したいと少しでも考えている人は、絶対に行つてほしいです。そして、皆さんにもイースタービレッジのとても素敵な「家族」と「ふるさと」に出会ってほしいと思います。このエクスポージャーの報告書を見て、沢山の人がイースタービレッジに興味を持ってくれることを願っています。

フィリピン Easter Villageでの感想文

山鼻カトリック教会 加世田将憲

私は今回のエクスポージャーを通して沢山の事を学び、感じる事ができました。

(中略) お昼には、子供たちとよく広い芝生の上でフリスビーをしたり、バトミントンをしたり、フィリピンのゲームを教えてもらったりといつも楽しい時間を過ごしていました。幼稚園児くらいの小さい子からと僕と同年代の子が一緒に楽しく遊べる環境がそこにはありました。

(中略) 私たちが今こうやって家族と一緒に暮らし、毎日三食の温かいご飯があり、学校に行き、安心して寝ることが出来る家がある。決して当たり前なんかではないのです。幸せなことなのです。親と一緒に生活したくてもできない、お腹が空いてもお金がなくて食べ物を買えない、勉強をしたくても学校にいけない、危なくて寒い外で生活をせざる負えない人がフィリピンに限らず世界には数え切れないほど沢山の事実から、私たちは目を背けてはいけません。

(中略) Easter Villageで生活し、自分の今までの価値観、人生観が180度変わりました。当たり前前の生活を送れていない子供たちを自分の手で救ってあげたい。Easter Villageのような復活できる場所をもっともっと増やして、未来や夢を

持った子供たちを一人でも多く助けたい。人にありがとうと言われるような人になりたい。子供たちの素晴らしい笑顔につながる仕事をしたい。漠然ではありますが、私はこう強く感じました。

Easter Villageは私に沢山の事を教えてくれました。いつになるか、どのような形になるかは私もまだわかりませんが、次は必ず私が恩返しをします。私の第二の故郷であるEaster Village、さよならではありません。必ずまた帰ります。私たちは永遠にfamilyです。(後略)



フィリピンのパーティーの定番レチョン・パボー (豚の丸焼き)



エクスポージャーを振り返って。  
札幌円山教会 菊地 遼

今回のフィリピンエクスポージャーは  
かなり前から参加を希望していましたが、  
参加して本当に良かったなと思っています。

(中略)僕は海外に行くのも初めてで、  
一番心配していたのは英語を使っ  
てコミュニケーションをとること  
が出来たのかということでした。しか  
し着いてすぐみんなと話をすることが  
でき、一気に緊張が解けました。ま  
るで、ふるさとに帰ってきたような居  
心地の良さで、これから始まるこ  
での生活が楽しみに思えました。

ウェルカムパーティーで披露してく  
れた歌や、毎晩のゲームなど、本  
当にたくさん楽しいことを用意してく  
れて毎日眠りにつくのがもったいな  
いと感じていました。僕は結局そん  
なうまく英語を喋れた訳ではありません  
でしたが、イースタービレッジの子  
どもたちは皆自分の気持ちや思っ  
たことを全身で表現していて、むしろ  
今の日本の子ども達と話すよりも話  
やすく、意思の疎通もできたのでは  
ないかと思っています。また日中  
学校に行っている子達がい  
ない時に一緒に遊んだ幼  
い三人は、僕相手に容赦なくビ  
サヤ語で話しかけてきま  
したが、なぜか言っている  
ことがわかってしまう  
のです。それでも僕が  
伝えたいことをうまく  
言葉にできずに悔し  
く思うこともありま  
した。

(中略)過ごして  
いて居心地が良かっ

たと書きましたが、それには大きく  
二つの理由があります。まず一つ目  
はなんといってもみんなの笑顔と笑  
い声、明るく温かい性格のおかげで  
す。のんびりとした空気が漂い、そ  
の中で輝く子供たちの笑顔がとても  
心に残っています。日本では、学校  
のすこしきこえない友達関係やピ  
リリした空気のなかにずっと居た  
せいで、いつも笑顔でのんびりし  
た性格はフィリピンのなかでも  
ミンダナオ島の人達に多いそう  
ですが、そういう国民性とは別に、  
イースタービレッジの子ども達  
には愛で溢れた笑顔があったと僕  
は感じました。

(中略)普段生活するなかで愛情や  
友情は誰かから受け取ることで  
ばかりに目がいきがちなのも  
多いですが、一方的に与えら  
れるようなものではなく、人  
にあげてこそ意味があるの  
だなあと改めて感じた数日間  
でした。



時間があればみんなでおしゃべり



お別れの朝に



毎晩みんなでいろいろなゲームをしました

ご寄付いただいた方々  
心より御礼申し上げます。

森田美千代 鈴木忠浩・みち子  
カトリック月寒教会 ケーキ部  
カトリック北26条教会  
海星学院 會津隆司 本坊芳子 笠松博子  
大森アヤ子 大竹紀子 真下廣子 高橋博治  
聖ドミニコ学院幼稚園・森本幸子  
カトリック元町教会・今田玄五  
高橋博子 山本悟郎・蓉子  
Oakキャピタル株式会社 森昭一  
勝谷太治 湊百合子 榎本みつ枝  
カトリック聖園子ども園・聖園天使のおうち  
松岡健一・博子 清水恵 永田淑子  
カトリック月寒教会宣教養成部・JOCチャ  
リティコンサート実行委員会  
宮田國博 白崎三千年 長谷川敬 小西淳子  
宮田敏夫・ゆか 聖ベネディクト女子修道院  
山崎晴美 武隈めぐみ 原祥子  
株式会社ウイズ 三好力 丹羽裕美子  
本間 子 野田正弘 池宮枝利子  
広島天使幼稚園 永井幸雄 祐川真一  
阿部秀子 灯台の聖母トラピスト修道院  
泰西 山田順一 萬屋三男  
堀田敏弘 山下勇 上野祐子 齊藤隆浩  
殉教者ゲオルギオのフランシスコ修道会  
尾森京子 カトリック北26条教会  
平田敦子 伊東恵子 佐藤謙一 阿部和加子  
横田三三子 扇谷良廣  
気仙沼カトリック幼気仙沼カトリック幼稚園  
(株)リモウ  
カトリック円山教会・イースタービレッジを  
支える会  
公益財団法人社会貢献支援財団  
札幌聖心女子学院  
宗教法人・さいたま教区  
トラピスチヌ修道院

(敬称略・順不同)



2017年11月16日～2018年2月1日



## EVの昨日今日

### クリスマスキャロリング

フィリピンには「キャロリング」という、日本で言えば「七夕」のような風習があります。

クリスマスシーズンになると、貧しい子供たちがお小遣いや食べ物をねだりに、クリスマスソングを歌いながら家々を回ります。

イースタービレッジのような寄付を必要とする施設や団体がキャロリングを利用して支援金を集めることも一般的で、今回EVでは、日本語の曲なども含めた6曲からなるクリスマスメドレーを披露しに地元の家々を訪ねました。



総勢30人以上での合唱は迫力があります



1ヶ月以上前から練習していました

### クリスマスパーティー

12月23日にイースタービレッジでクリスマスパーティーが開かれました。

まだ日も明るいうちからパーティーは始まり、外の庭でゲームをやったりプレゼント交換をしたりと、大人から子供まで大いに盛り上がりました。これはイースタービレッジに限った事ではないのですが、フィリピン人は本当に楽しむというところにかけて全力です。みんな一丸となって楽しむことなので、誰ひとり白けたりすることはありません。



イスクリームなどの差し入れを届けてくれました。

フィリピンにはシンプルで楽しいゲームが山ほどあります



本当に楽しい1日でした



仲良しのマージェイラとジョシュア



## 誕生日おめでとう

2017年11月から翌年1月までの誕生日を迎えた子供たちを紹介しま

す。  
まずは11月生まれがIL（大子子供）メンバーのセサル（23）と今回ビレッジで初めて誕生日を迎えたT・J（10）です。セサルはEVのCDアルバムのためにオリジナル曲を作ってくれたり、とても才能にあふれた青年ですが、今年いよいよ大学を卒業します。T・Jはビレッジに来てから数ヶ月ですが、もうすっかり仲間とも打ち解けて毎日元気に暮らしています。  
12月生まれはジョシユア（5）、ネリサ（15）、ILのジョセフ（23）の3人です。泣き虫だったビレッジ最年少のジョシユアは、幼稚園に通い出したこともあり、最近はお兄さんっぽくなってきました。ネリサはとても優しい女の子で、小さい子供の面倒をよく見てくれています。ジョセフはとても働き者で、弟のガマイ（22）と共に子供の学校の送り迎えや、ビレッジの雑多な仕事を手伝ってくれます。

1月生まれはジェニス（13）、ジャンジャン（17）、ジョビリン（21）の3人。ジェニスはもうすっかり年頃の女の子に成長して、最近では厨房で料理の手伝いなども積極的にしてくれます。ジャンジャンは実は一度親元に帰っていたのですが、副施設長のチェチェが呼び戻して、ビレッジの手

伝いをしながらコツコツ土曜学校に通っているところ。ジョビリンはついに今年高校卒業の年で、進学についていろいろと不安な気持ちもあるようですが、そこはしっかりとチェチェが相談に乗ってくれています。

実は1月の誕生日パーティーは、スタッフのケアギバー達の計らいで特別にマルティネスというスイミングプールのあるリゾート施設で行われました。普段行くエライのスイミングプールとはまた違って、中には広い中庭やコテージがあり、サルや鳥などの動物が飼われています。いつもとは違う誕生日パーティーに、み



ご満悦の表情



みんないい笑顔



ジェニスとジャンジャン



みんなでジャンプ！



いたずら盛りのムロンとジュンジュン



## 分かち合いの文化

### 懐かしい訪問者

昔からイースタービレッジをご存知の方であれば、この名前に聞き覚えのある方もいるでしょう。ビレッジの初期のメンバーで卒業生のウイナリンが、子供の誕生日を一緒に祝いしたいとビレッジを訪ねてくれました。

6歳になる息子のジョイくんの誕生日パーティーは、みんなでゲームをしたりダンスを踊ったりと、とても楽しいものになりました。

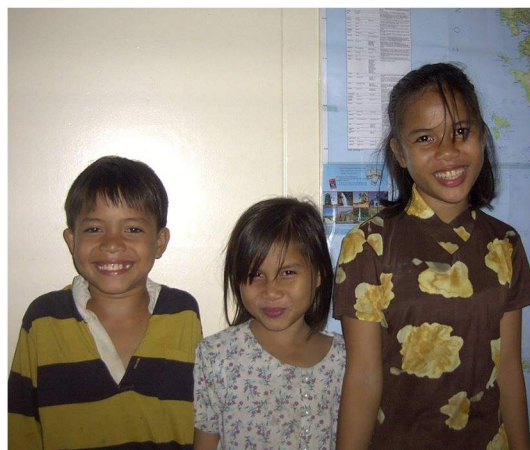
また次の里帰りを待っています。



左からアナリン、ウイナリン、ゴゴの3兄弟  
みなビレッジの卒業生です



パーティーゲーム的一幕  
どちらのチームが長いラインを作れるかを競っています



幼い頃の3人。みなEVで青春を過ごしました

### クリスマスプレゼント

12月7日に、イースタービレッジのあるキダパワン市から西に位置するミドサヤップ地区のドクター・タノツドのグループが、子供たちへクリスマスプレゼントを届けに訪問してくれました。

彼らの訪問は今回で2度目となり、このように地元でイースタービレッジを認知してもらっていくことも、とても大切なことです。

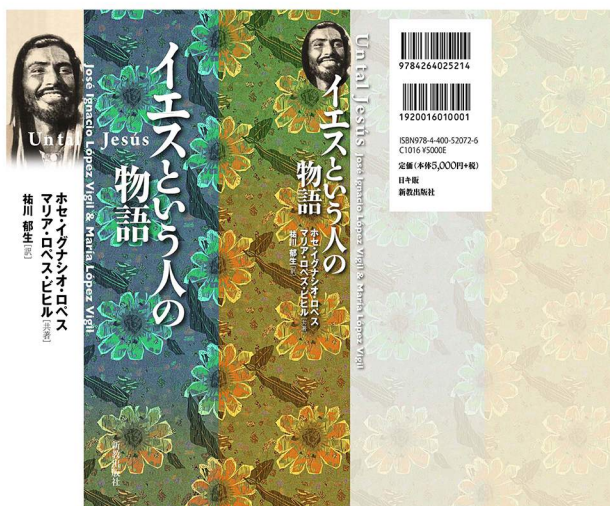
みんなで感謝の気持ちを込めて歌を披露しました。



### 追加出版のお知らせ

『イエスという人の物語』は2014年クリスマスに出版されましたが、この度、第二版が出されることになりました。144章、日本語でも千ページを超える作品ですが、地道にファンを増やしてきました。

ラテンアメリカで話題を呼んだラジオドラマに基づくイエスの物語で、読者は知らず知らずのうちに、当時の普通の生活や習慣、社会状況を理解することになります。勝谷司教の推薦を頂いています。ご注文はCD（左頁）と同じく月寒教会まで。







## イースタービレッジCDアルバム第2弾!

フィリピンで歌われている曲や祈り  
イースタービレッジのオリジナルソング  
また勝谷太治司教のオリジナル曲のイースタービレッジバージョンなど

### 全14曲を収録

施設のチャペルで録音された子供たちのイノセントな歌声や  
イースタービレッジの歌姫ビビの美しい歌声など  
前作よりもさらにスケールアップした音楽が聴く者の心を揺さぶります  
日本から自分たちを支えてくれる全ての人々に感謝を込めて

遠い南の島ミンダナオ島から  
Merry Christmas in Easter Village!!

#### 受付・問い合わせ

カトリック月寒教会 CDアルバム係り

〒003-0021

札幌市白石区栄通2丁目11-16

電話 011-851-2032

Fax 011-851-2044

Email [ako.martha@gmail.com](mailto:ako.martha@gmail.com)



iTunes Store    Apple MUSIC    LINE MUSIC

Google play music    amazon

各サイトにてEVオリジナルソング配信中

購入は'Easter Village'で検索してください





南の島ミンダナオ島からの花便り

### 〈支援のお願い〉

フィリピン南部にあるイースタービレッジ・ミンダナオは善意ある日本の皆様に支えられています。貧困と紛争の犠牲者となっている声なき子どもたちを私たちが支え、そして彼ら自身が自立し、貧困と紛争の原因を取り除く平和の使者となるようにできるだけの援助をしたいと考えています。与える以上に受けるものの方が本当はもっと多いのです。援助をくださる方は下記事務局にご連絡下さいませ。

### 「イースタービレッジ・ミンダナオを支える会」支援者募集

■代表 勝谷 太治 ■事務局 西田 淳子 松川 厚明

#### 住所

060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10 カトリック札幌司教館内  
「イースタービレッジ・ミンダナオを支える会」事務局

Tel 011-241-2785 Fax 011-221-3668

支援金：年会費一口 ¥5,000（一口以上）一般寄付

郵便振替口座番号：02760-3-39473

口座名称：イースタービレッジ・ミンダナオを支える会

現地事務局：EASTER VILLAGE OFFICE

Address: Riverpark Subd., Kidapawan City 9400 Cotabato Philippines

Tel/Fax: 63-64-577-3118

Email: info@eastervillage.com

Website: http://eastervillage.com

#### 特記

会員、並びに奨学生を支えて下さっているスポンサーの方々、一般のご寄付を下さった方々には継続してこのたよりを送らせていただきます。（年4回）

2018年3月

「イースタービレッジだより60号」

編集者：祐川真謙

編集責任者：祐川郁生

